

高活協通信(2023年7月号)

発行：一般社団法人 高齢者活躍支援協議会

<http://www.agenomics.org>

◆◆◆高活協ニュース◆◆◆

■お知らせ

- 今月の“「定年後の仕事」情報欄”は、“連載「高齢者は定年後どんな仕事をしているのか」”の第9回目です。
- 高活協通信「今月の一冊」は、「老いのゆくえ」です。
- 高活協ホームページを更新しました。
 - ・「高活協ホームページ」の URL は以下の通りです。

<http://www.agenomics.org>

高活協は会員の皆様に毎月1回「高活協通信」を配信させていただいております。この通信活動を会員の皆様と高活協とのコミュニケーションの機会とさせていただきたく考えております。つきましては、皆様のご意見や提供したい話題などがございましたら、本配信メールへの返信にてお寄せいただければ幸いです。

■2023年6月の主な活動

- 高活協は現在、シンポジウムなど人が多く集まるイベント活動を停止しております。ただし、少人数の会議・イベント等、あるいは ZOOM 等を利用したオンラインの会議・イベント等は適宜実施しております。
- 2023年6月12日、高活協が参加団体となっている高齢社会 NGO 連携協議会(高連協)の役員会に理事として出席しました。6月19日に予定されている高連協総会の議題のうち、先に辞任された共同代表の後任選任について協議しました。
- 2023年6月19日、高連協総会に理事として出席しました。新たな共同代表の選任を含めて提議された議題はすべて承認されました。
- “「定年後の仕事」情報欄”では、「高齢者は定年後どんな仕事をしているのか」を連載しています。今月号では、今年になって発行された高齢者就業本「定年後でも困らない！誰でも稼げる小さな仕事」(宝島社)を取り上げ、その内容を紹介することにしました。
- 高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ページにおいて、「高活協通信(2023年6月号)」を掲載しました。
- 2023年6月、生涯現役社会の実現に向けた行政や企業などの動向に関する情報収集を行いました。なお、「◆◆◆生涯現役社会の実現に向けてー トピックス ◆◆◆」のコーナーでは、“「定年後の仕事」関連情報”を適宜掲載していきます。

◆◆◆高活協主催/共催イベントの紹介◆◆◆

■これまで高活協が主催した(共催含む)イベントの報告書/記録集

過去に高活協が主催・共催したイベント(シンポジウム、セミナー/フォーラム)の報告書や記録集は、高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ボタンをクリックしてご覧になれます。(ホームページは下記 URL)

<http://www.genomics.org/>

◆◆◆高活協会員関連イベント等のご紹介◆◆◆

会員のご希望があればご紹介記事を適宜掲載させていただく予定です。

◆◆◆生涯現役社会の実現に向けて – トピックス◆◆◆

生涯現役社会は、「職業寿命」「社会活動寿命」「健康寿命」「資産寿命」という 4 つの寿命の延伸が相乗効果をもたらす社会、すなわち「それぞれの寿命の伸びが相互に他の寿命も伸ばす」という好循環がもたらされる社会です。そんな生涯現役社会の実現に向けた最近の動きを紹介していきます。

■ちょっとした話題

一年々強まる生涯現役志向ー

- 「ヤフーニュース」に、プルデンシャル・ジブラルタ・ファイナンシャル生命保険が、2023 年に還暦を迎える男女を対象に「還暦以降の就労意向」についての調査を実施した結果を発表したとの記事が掲載されていました。調査は 2023 年 3 月 13 日～15 日の 3 日間、2023 年に還暦を迎える 1963 年生まれの男女 2000 人を対象に、インターネットリサーチで実施されたものとことです。
- 全回答者のうち、「59 歳時点で就労をしている・していた人」(1527 人)に「60 歳以降、何歳まで働きたいか」について聞いたところ、65 歳以降も働きたいと思う人の割合は 81.4%という結果になっています。
- 過去行われた同じ調査の結果ですが、「65 歳以降も働きたい」と思う人の割合は、2021 年が 78.3%、2022 年が 79.0%でした。
- 結局、「65 歳以降も働きたい」と思う人の割合は、今回の調査を含め下記の通り上昇傾向が続いており、還暦人の生涯現役志向は年々強まる傾向にあるようです。
2021 年=78.3% → 2022 年=79.0% → 2023 年 81.4%

■「定年後の仕事」情報欄

- 2021 年 4 月から施行された改正高年齢者雇用安定法(=70 歳就業法)では、定年後の継続雇用だけでなく、継続的な業務委託や社会貢献活動への支援といった措置も選択肢になっており、高齢者の多様な働き方を後押ししています。
- 今後このトピックスのコーナーでは、「定年後の仕事」に関連した情報を適宜掲載していきます。高齢者の

就業を考える際の参考にしていただければ幸いです。

「高齢者は定年後どんな仕事をしているのか」をテーマにした情報を連載しています。

先月号では米国でも高齢者の就業志向が高まってきていることを AARP の WEB サイトから眺めてみました。連載 9 回目の今月号では、最近出版された高齢者就業本「定年後でも困らない！誰でも稼げる小さな仕事」(金澤美冬、宝島社)を取り上げてみました。去年出版され 10 万部のベストセラーとなった「ほんとうの定年後 - 小さな仕事が日本社会を救う」(坂本貴志、講談社現代新書)の後、今年 2 月に出版された高齢者就業本です。

かつて高齢者就業本は売れないのが相場だったことを考えると、最近では定年後に不安を感じている人が多くなっているのかもしれない。無理なく働ける仕事を探している高齢者が増えていると思われれます。

そんな高齢者就業本のキーワードは、「定年後」と「小さな仕事」ではないでしょうか。

「定年後でも困らない！誰でも稼げる小さな仕事」(金澤美冬・宝島社)より

この本の第 3 章では「無理なく続けられる小さな仕事 50」すなわち「やりがいを持って、楽しく長く働ける小さな仕事」50 例を紹介しています。負荷やストレスが少ないうえに満足度はとても高い。そんな「小さな仕事」が定年後のシニアライフを豊かにしてくれる。また仕事を通じて社会とつながり続けると、心も体も健康になれると言っています(データによって検証されたのかどうかは定かではありませんが・・・)。

以下はこの本で取り上げられた「無理なく続けられる小さな仕事 50」のリストです。

- 1、アンティークショップ・カフェのオーナー 2、地域の観光ガイド 3、竹細工職人 4、ファッション Youtuber 5、エキストラ
- 6、ベビーシッター 7、キャリアサポーター、スナックのママ 8、アフィリエイト、大手家具販売店アルバイト
- 9、シェアハウス運営 10、モスジバー、マクドナルドシニアクルー
- 11、コンビニ店員 12、ライター、アフィリエイト 13、日本語教師 14、顧問 15、通訳
- 16、講師・コーチング 17、インストラクター 18、キャリアコンサルタント 19、タクシードライバー 20、清掃スタッフ
- 21、マンション管理人 22、警備員 23、家事代行 24、調理補助 25、校正、小論文添削
- 26、翻訳業 27、産業カウンセラー 28、消費者生活アドバイザー 29、ペットシッター 30、葉っぱビジネス
- 31、駐車監視員 32、保育補助員 33、植木職人、造園業 34、酪農 35、ビル設備管理
- 36、デパート広告などの監視員 37、ネットショップ発送代行 38、クレーム代行 39、ライブ配信監視 40、放置自転車管理

41、墓参り代行 42、冠婚葬祭の代理人 43、リスニングスタッフ 44、高齢者の安否確認電話 45、自動販売機設置場所探し

46、工場などでの軽作業 47、プラモデルやジグソーパズル制作代行 48、介護スタッフ、ホームヘルパー 49、お遍路代行 50、学生寮や社員寮の管理

◆◆◆読み物コーナー◆◆◆

■今月の1冊

人生 100 年時代を迎え、シニア層の増加を意識した書籍が増えているようです。このコーナーでは、高齢者の就労に関わるテーマや高齢者の社会参加、ライフスタイル、健康問題などを取り上げている書籍を紹介します。

書 名: 老いのゆくえ

著 者: 黒井 千次^{せんじ}

出版社: 中央公論新社(中公新書)

(URL <https://www.chuko.co.jp/shinsho/2019/06/102548.html>)

定 価: 902 円(税込)

今回は、作家・黒井千次氏のエッセイをご紹介します。

黒井氏は 1932 年生まれ。満 91 歳のいまでも、読売新聞夕刊に月 1 回の連載「日をめくる音」を続けている、現役の作家です。本書には、この連載の 2014 年 9 月から 2019 年 4 月まで掲載された“老いの日々のスケッチ”が収録されています。

黒井氏は、ベストセラー作家ではありませんが、戦後を代表する小説家(いわゆる「内向の世代」)のひとりであり、これまでに多くの文学賞を受賞するとともに、1987 年から 2012 年まで芥川賞の選考委員も務めていました。その功績から、文化功労者を受章しています。

本書には、作家として確かな実績を築き上げ、80 代を迎えた筆者の日常生活が印象に残るエピソードとともに、赤裸々に描かれています。たとえば、屋外を歩行中に転倒したこと、自動車の運転に自信が持てなくなり免許証を返納したこと、日常生活において些細なミスが増えたこと、宿泊先のユニットバスの中から立ち上がることが出来なくなり難儀したこと等々。一読して、特に印象に残ったのは、加齢による身体機能の衰えが原因と考えられる、転倒などに関するエピソードです。転倒して顔を擦りむいたり、眼鏡を壊してしまったり、80 代を迎えると個人差も大きくなるといわれるものの、高齢者の日常生活をリアルに実感することができそうです。

また、企業の定年制に言及しているエピソードもあります。作家である筆者には定年はありませんが、仕事上の長年のパートナーともいえる担当編集者には定年があり、定年を理由とした担当者の交代を聞いた時

の筆者の心境が描かれています。

なお、本書に先だって発刊された姉妹書が『老いのかたち』と『老いの味わい』として、中公新書で刊行されています。時系列で読み進めると、70代から80代にかけて、心境や体力が変化する様子がリアルに感じられるかもしれません。

(特別会員:坂巻 大)

■高齢者雇用の総合誌『エルダー』のご紹介

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が発行する高齢者雇用の総合誌「エルダー」に関する情報は、下記の URL からご覧いただけます。

[啓発誌「エルダー」 | 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 \(jeed.go.jp\)](http://jeed.go.jp)

◆◆◆ ◆◆◆
配信先メールアドレスの変更をご希望の方、また配信が不要な方は高齢者活躍支援協議会・事務局までご連絡ください。

本通信に対するご意見やご感想をお聞かせください。

また、本通信に掲載してほしい情報等がありましたら、ぜひご連絡ください。

一般社団法人高齢者活躍支援協議会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 17-2 兜町第6 葉山ビル 4階

TEL: 03-6555-3926 HP: <http://www.agenomics.org>
